

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第22週の発生動向

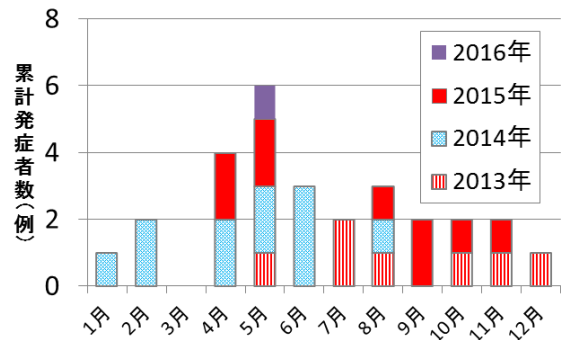
トピックス

・**重症熱性血小板減少症候群（SFTS）**（全数報告の感染症）の報告が延岡保健所から1例あった。県内での報告は今年初めてで、累計28例目（平成25年3月届出開始以降）となった。患者は60歳代男性で、発症は5月中旬であった。ダニの刺し口は確認できず、海外渡航歴もなかった。

県内のSFTS年齢別報告数

30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
1	1	2	9	6	8	1

県内のSFTS月別発症者数（届出開始以降）

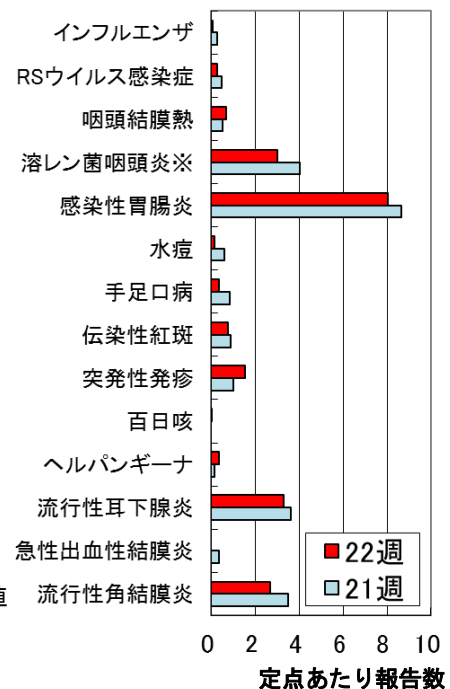


全数報告の感染症（22週までに新たに届出のあったもの）

- 1類感染症：報告なし。2類感染症：結核8例。3類感染症：報告なし。
- 4類感染症：重症熱性血小板減少症候群1例、日本紅斑熱1例。5類感染症：報告なし。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型	症状等
2類	結核	宮崎市	70歳代	女	頸部リンパ節結核	痰、頸部リンパ節腫瘍
			80歳代	男	粟粒結核	咳、痰
			80歳代	女	頸部リンパ節結核	頸部リンパ節腫大と排膿
			90歳代	女	肺結核	発熱
		日南	90歳代	女	疑似症患者	咳、痰、発熱
		日向	70歳代	女	肺結核	症状なし
			90歳代	女	肺結核	呼吸困難
中央	60歳代	男	中耳結核	左右両側の耳漏、聴力低下		
4類	重症熱性血小板減少症候群	延岡	60歳代	男	—	発熱、腹痛、下痢、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少、リンパ節腫脹
	日本紅斑熱	宮崎市	80歳代	女	—	発熱、発疹、肝機能異常、筋肉痛

《前週との比較》



定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は702人（定点当たり23.1）で、前週比88%と減少した。前週に比べ増加した主な疾患は咽頭結膜熱とヘルパンギーナで、減少した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎と手足口病であった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【感染性胃腸炎】

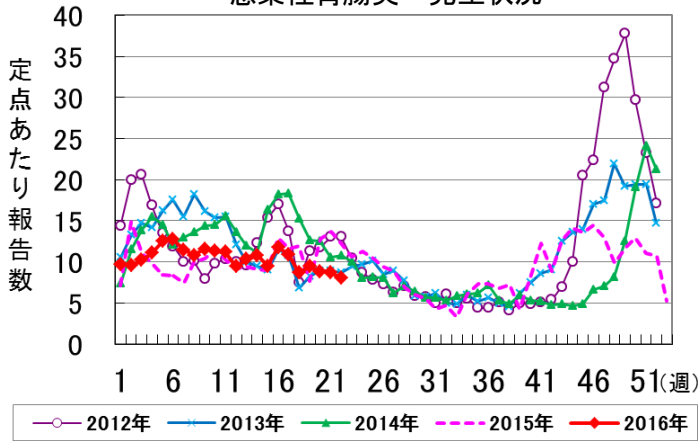
・報告数は290人（8.1）で、前週比93%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*（10.3）の約0.8倍であった。小林（21.3）、日向（10.5）、高千穂（10.0）保健所からの報告が多く、年齢別では1~2歳が全体の約3割を占めた。

【流行性耳下腺炎】

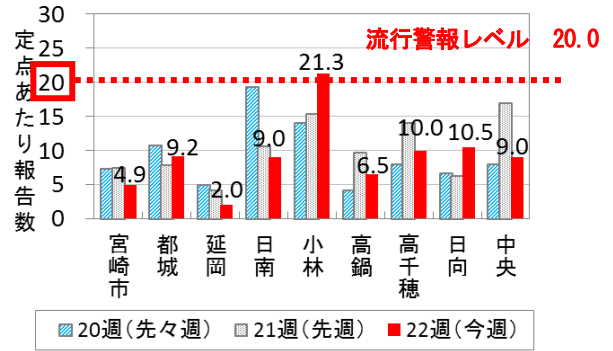
・報告数は119人（3.3）で、前週比92%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*（0.70）の約4.7倍であった。小林（17.0）、日向（5.3）、延岡（5.0）保健所からの報告が多く、年齢別は別グラフに示す。

* 過去5年間の当該週、前週、後週（計15週）の平均値

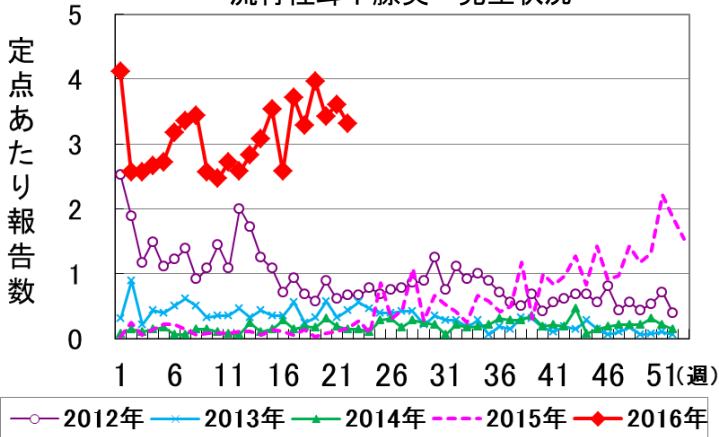
感染性胃腸炎 発生状況



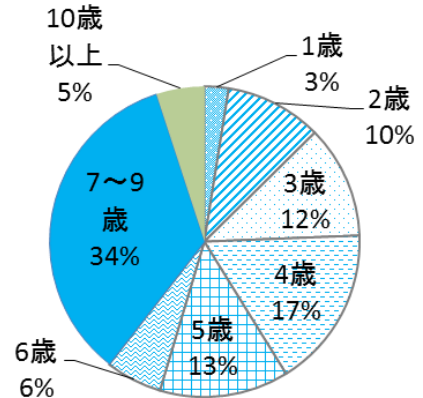
感染性胃腸炎 保健所別推移 (3週分)



流行性耳下腺炎 発生状況



流行性耳下腺炎 年齢群別割合



★基幹定点からの報告★

○マイコプラズマ肺炎：延岡保健所、日南保健所から1例ずつ、高鍋保健所から10例報告があった。0~4歳が1例、5~9歳が8例、10歳代が3例であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	流行性耳下腺炎(5.0)
日南	なし
小林	感染性胃腸炎(21.3)、流行性耳下腺炎(17.0)
高鍋	なし
高千穂	流行性耳下腺炎(3.0)
日向	流行性耳下腺炎(5.3)
中央	伝染性紅斑(2.0)

* 流行警報レベル開始基準値 *

- ・感染性胃腸炎(20.0)
- ・伝染性紅斑(2.0)
- ・流行性耳下腺炎(6.0)

* 流行注意報レベル基準値 *

- ・流行性耳下腺炎(3.0)

□病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 平成28年6月6日までに検出)

★細菌

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
Salmonella spp. (血清型不明)	10歳代	男	2016.5.17		便	2016.5.31
EHEC(O26:H11 VT1)	5~9歳	男	2016.5.26	無症状	便	2016.6.1
EHEC(O26:H11 VT1)	60歳代	女	2016.5.26	無症状	便	2016.6.1

○今年度初めて、腸管出血性大腸菌 (EHEC) が検出された。EHECはベロ毒素を産生する大腸菌で、下痢、腹痛、血便などを引き起こし、溶血性尿毒症症候群 (HUS) や脳症などを合併した場合には死に至ることもある。一方で、無症状や軽い下痢ですむ場合もあり症状は多彩である。国立感染症研究所の報告によると、2015年の宮崎県の感染者報告数(無症状含む)は、人口10万対報告数8.0以上と他の都道府県より高いことから、今後も引き続き発生動向には注意していく必要がある。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状	材料	検出日
インフルエンザウイルス B型(山形系統)	0～4歳	女	2016.05.03	インフルエンザB型、38.5℃	咽頭ぬぐい液	2016.06.03
インフルエンザウイルス B型(山形系統)	5～9歳	女	2016.05.10	インフルエンザB型、発熱、咳	咽頭ぬぐい液	2016.06.03
エコーウイルス18型	0～4歳	女	2016.04.19	不明の発疹症、上気道炎 発疹(丘疹)、咳、鼻水	咽頭ぬぐい液	2016.05.30
エコーウイルス18型	0～4歳	男	2016.04.15	手足口病、口内炎	咽頭ぬぐい液	2016.06.06
エコーウイルス18型	0～4歳	男	2016.04.25	ヘルペス、歯肉炎	咽頭ぬぐい液	2016.05.30
エコーウイルス18型	0～4歳	男	2016.04.27	エンテロウイルス感染症疑い 38.2℃、発疹(丘疹)	咽頭ぬぐい液	2016.05.30
エコーウイルス18型	0～4歳	女	2016.04.30	不明の発疹症 39℃、発疹(紅斑)	咽頭ぬぐい液	2016.05.30
エコーウイルス18型	0～4歳	女	2016.04.30	エンテロウイルス感染症疑い 38℃、発疹(紅斑)	咽頭ぬぐい液	2016.05.30
RSウイルス	0～4歳	女	2016.05.20	肺炎、39℃	咽頭ぬぐい液	2016.06.01
ノロウイルスGⅡ型	0～4歳	男	2016.05.23	ウイルス性腸炎、37.8℃、下痢	便	2016.05.26

○発疹を呈する乳幼児6名からエコーウイルス18型(E18)が分離された。4月に採取された検体では、16名からエンテロウイルスが分離され、全てE18であった。また、エコーウイルスは血清型によっては無菌性髄膜炎を起こすが、E18が分離された16名中13名は臨床症状として発疹などの皮膚症状が記載されており、無菌性髄膜炎の患者は現在のところ出ていない。

○ウイルス性腸炎の乳児からノロウイルスGⅡ型が検出された。ノロウイルスは感染力が強いため注意が必要である。

🇯🇵 全国 2016 年第 21 週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (全国第 21 週)

1類感染症	報告なし				
2類感染症	結核	439 例			
3類感染症	細菌性赤痢	3 例	腸管出血性大腸菌感染症	36 例	
4類感染症	E型肝炎	4 例	A型肝炎	7 例	オウム病 1 例
	回帰熱	1 例	重症熱性血小板減少症候群	3 例	つつが虫病 5 例
	デング熱	4 例	日本紅斑熱	3 例	ライム病 1 例
	レジオネラ症	33 例			
5類感染症	アメーバ赤痢	9 例	ウイルス性肝炎	2 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症 16 例
	急性脳炎	5 例	クリプトスポリジウム症	1 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 7 例
	後天性免疫不全症候群	15 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	5 例	侵襲性肺炎球菌感染症 46 例
	水痘(入院例)	6 例	梅毒	55 例	播種性クリプトコックス症 1 例
	破傷風	1 例	風しん	7 例	

□ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 103%とほぼ横ばいであった。前週と比較して増加した主な疾患は咽頭結膜熱と水痘であった。減少した主な疾患はインフルエンザと流行性耳下腺炎であった。

流行性耳下腺炎の報告数は 2,676 人(0.85)で前週比 89%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.48)の約 1.8 倍であった。宮崎県(3.6)、富山県(1.9)、山形県、佐賀県(1.8)からの報告が多く、年齢別では 4～5 歳が全体の約 3 割を占めた。* 過去 5 年間の当該週、前週、後週(計 15 週)の平均値

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2016年 第22週(5月30日～6月5日)

疾病名		第21週	第22週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	16	5	2	1			2				
	定点あたり	0.27	0.08	0.13	0.10	0.00	0.00	0.40	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	17	10		6	1			2		1	
	定点あたり	0.47	0.28	0.00	1.00	0.25	0.00	0.00	0.50	0.00	0.25	0.00
咽頭結膜熱	報告数	19	25	7	2	5	5	3	2		1	
	定点あたり	0.53	0.69	0.70	0.33	1.25	1.67	1.00	0.50	0.00	0.25	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	145	108	23	15	9	16	8	16	2	16	3
	定点あたり	4.03	3.00	2.30	2.50	2.25	5.33	2.67	4.00	2.00	4.00	3.00
感染性胃腸炎	報告数	312	290	49	55	8	27	64	26	10	42	9
	定点あたり	8.67	8.06	4.90	9.17	2.00	9.00	21.33	6.50	10.00	10.50	9.00
水痘	報告数	21	6	2	2			1			1	
	定点あたり	0.58	0.17	0.20	0.33	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.25	0.00
手足口病	報告数	30	13	5		2	1	3			1	1
	定点あたり	0.83	0.36	0.50	0.00	0.50	0.33	1.00	0.00	0.00	0.25	1.00
伝染性紅斑	報告数	32	28	9	8			3	5		1	2
	定点あたり	0.89	0.78	0.90	1.33	0.00	0.00	1.00	1.25	0.00	0.25	2.00
突発性発しん	報告数	36	56	10	8	10	7	5	9		5	2
	定点あたり	1.00	1.56	1.00	1.33	2.50	2.33	1.67	2.25	0.00	1.25	2.00
百日咳	報告数		1		1							
	定点あたり	0.00	0.03	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	6	13	3	1	2		2			5	
	定点あたり	0.17	0.36	0.30	0.17	0.50	0.00	0.67	0.00	0.00	1.25	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	130	119	7	9	20		51	7	3	21	1
	定点あたり	3.61	3.31	0.70	1.50	5.00	0.00	17.00	1.75	3.00	5.25	1.00
急性出血性結膜炎	報告数	2										
	定点あたり	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	21	16	14	2							
	定点あたり	3.50	2.67	4.67	1.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数	8	12			1	1		10			
	定点あたり	1.14	1.71	0.00	0.00	1.00	1.00	0.00	10.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数	2										
	定点あたり	0.29	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2016年第1週～22週)

2類感染症	結核	91例(8)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	4例				
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	3例	重症熱性血小板減少症候群	1例(1)
	つつが虫病	5例	日本紅斑熱	1例(1)		
5類感染症	アメーバ赤痢	9例	ウイルス性肝炎	1例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	2例
	急性脳炎	7例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例
	後天性免疫不全症候群	2例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2例	侵襲性肺炎球菌感染症	4例
	梅毒	5例	播種性クリプトコックス症	3例	破傷風	1例

()内は今週届出分、再掲